

## 終戦七十五年をむかえて思うこと

明和小学校 六年 泊 優美菜

今年で、終戦七十五年をむかえました。毎年八月になると、戦争に関する新聞記事や、テレビでの、ニュースや番組をよく見ます。私は今、平和に生活を送っているけれど、七十五年以上も前には、戦争というものがあり、平和ではない生活があったと思うと、とてもこわいです。

一九四五年の八月に日本が、降伏していなければ、その年の十一月には、鹿児島県に原子爆弾が落とされる予定で、鹿児島県も沖縄県みたいに本土決戦が行われる日が近づいていたということと、オリンピック作戦というものが実行される予定で、日本軍もそれを分かっていて、鹿児島県の志布志にたくさんの兵士が集められたということを見て、知りました。本土決戦が行われていけば、毒ガスが使われていたかもしれないと言っていました。もし、鹿児島県に原子爆弾が落とされ、本土決戦が行われていたとしたら、もつとたくさんの人が死んでしまったと思います。また、もしかしたら私も産まれていなかったと思うと、とてもおそろしいと思いました。

祖母に、戦争があった時の話を聞きました。戦争があった時は、食べる物も着る物も無かったそうです。祖父は、六才ごろに終戦をむかえたそうです。戦争中に家の近くで、アメリカの飛行機が飛んでいて、近くの畑にあわててかくれた体験があるそうです。家の庭に防空ごうという隠れるための穴を掘っていたそうです。また、親せきの人は、親せきの家に一人で、一年間くらい疎開をしたそうです。よそから来たので、いじめられ、毎日泣いていて、さびしくて家に帰りがたかったそうです。私は、とても信じられませんでした。話を聞いて、改めて戦争は、恐ろしいものと知り、戦争のない平和

な国が大切だということと、二度と戦争をしないということが大切だと強く思いました。

日本は、今平和だけれど、世界では内戦が続いている国もあります。それぞれがお互いを認め合うことが大切だと私は思います。今は、国同士で大きな戦争は起こっていないけれど、たくさんの国々が核兵器を持っています。核兵器は一瞬にして多くの人の命を奪う恐ろしい武器です。世界に核兵器が無くなれば、世界のみんなが平和に暮らせることができるのかなと思います。

今の時代は戦後といわれているけれど、近い未来に今の時代が戦前とならないように、大人だけではなく、私達子どもも、何かしらの努力をし、戦争について関心を持ち、伝え続けていかなければならないと思います。

未来に生きている人達が、本当に安心して平和に暮らしていける世の中を、私達がつくっていくかれないかと思えます。これからも、平和に生活できていることに感謝して生活していきたいと思っています。